

Akiの

はじめた
〇ゼロから
テンカウ物語



池田亜季



自己紹介

1983年生まれ。テンカウ(釣り)歴は4年目になりました。
夏は、富山県の山の上のビクターセンターで自然に関する仕事をしています。

20代の頃は家で絵を描くことが好きな超インドア派でしたが、30代で始めたマラソンをきっかけに、登山やトレイルランニングと、山で遊ぶ事に夢中になりました。

とろろが3ヶ月間に入り、なかなか自由に外遊びが出来なくなり、暇を持て余していた時に出会ったのが、「テンカウ釣り」でした。元々生き物が好きだったこともあり、魚と触れ合えて、大抵好きな自然の中に入れる溪流釣りにバッチリハマりました。

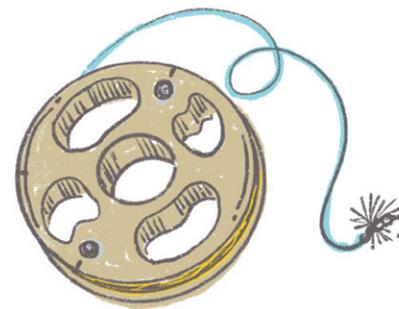
多い時は、ほぼ毎週の様に釣りに出掛けます。

テンカウを教えた頂いた師匠でもあり、「テンカウ大王」の石土田先生に監修を頂き、この冊子を作りました。



Akiの

テンカウ物語
はじめた
Oゼロから

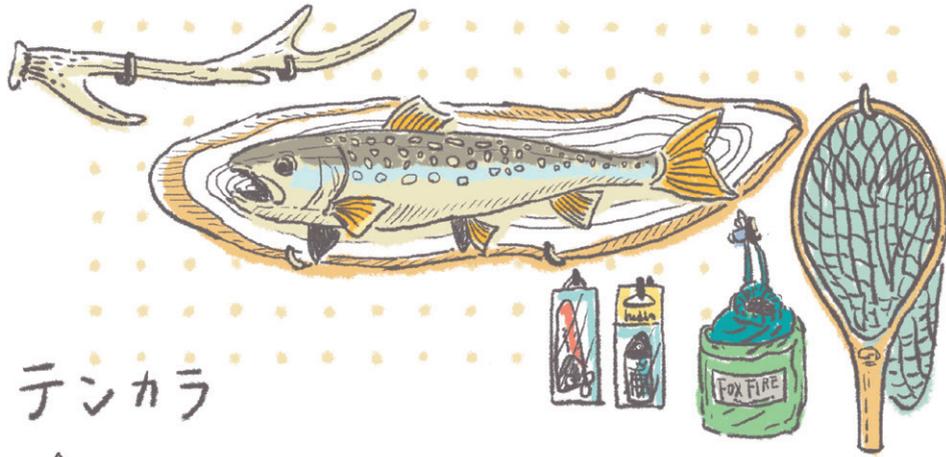


池田亜季

ある日、釣りを始めることに...

きっかけはコロナ禍の自粛期間中に、これまでの様に自由な外出遊びが出来なくなり、自宅で暇を持て余していたところ、家に食布巾があった。昔、夫が釣ったという「イワナのはく製」の話を聞き、「溪流釣り」というものに興味を持ったことから始まりです。

※夫のことを「アニキ」と呼んでいる為、以降アニキと記載させていただきます... (笑)



テンカラ

釣りを始めようと思った時、私は様々な釣り方の中から「テンカラ」を選びました。

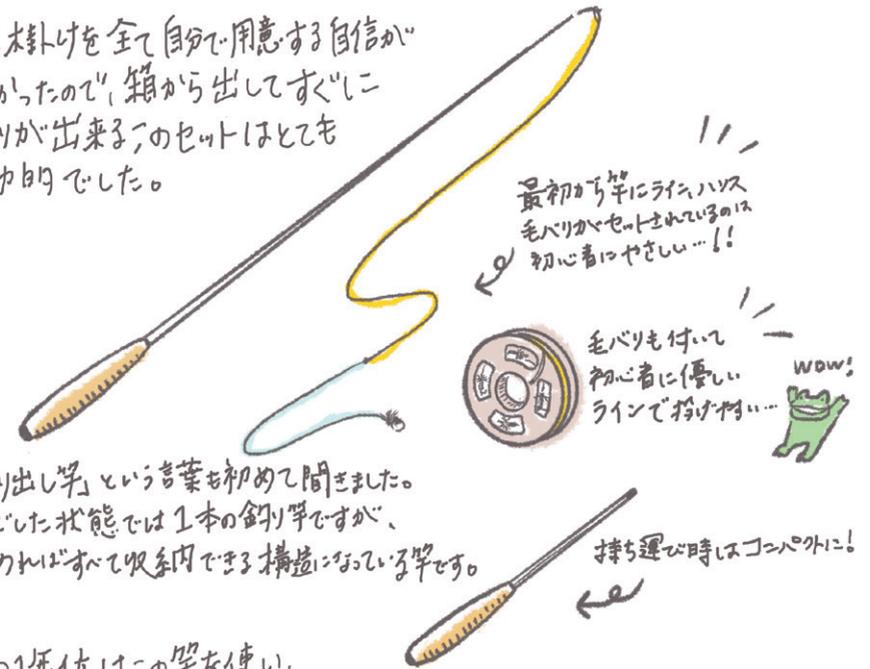


テンカラをやっていた登山仲間からは「気軽に、安く始められる」と聞き、金釣りはお金がかかるイメージだったので、最初はテンカラを試して、気に入ったら系統釣しようという軽い気持ちで選びました。

はじめてのテンカラ竿

テンカラに挑戦するにあたり、まずはネットで「テンカラ」と調べるところから始めました。YouTubeで、石垣先生(テンカウ大王と呼ばれている様で)の初心者向けの動画が見つかり、面白そうと早速道具を揃えることになりました。竿の長さや仕掛け、毛バリ、選り肢が多過ぎて「分からないことか分からない」状態の私が選んだのは、動画で紹介されていた石垣先生監督のシマノのオールインワンのセット、「テンカラBBキット」でした。

仕掛けを全て自分で用意する自信が無かったので、箱から出してすぐに釣りが出来るこのセットはとても魅力的でした。



最初から竿にライン、ハリス、毛バリがセットされているのは初心者に優しい...!!

毛バリも付いて初心者に優しいラインで釣りが...!!

Wow!

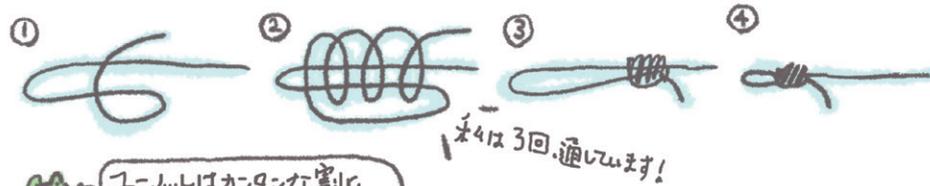
「振り出し竿」という言葉を初めて聞きました。伸ばした状態では1本の金釣り竿ですが、縮めればおおよそ収め内できる構造になっている竿です。

持ち運び時はコンパクトに!

最初の1年位はこの竿を使い、その後は中級者用の竿が欲しくなり、今は同じシマノの「天平テンカラ」という竿をメインで使っています。BBキットは予備竿として持っています。どちらも3.3Mの竿です。

ハリスの糸結び方を覚えた

テンカラBBキットは、はじめからハリスがセットされていますが、
 モバリを取り替える時は自分で糸結びがないといけなないので
 「ユニット」という結び方を覚えました。



ユニットはカンタンな割に
 糸若葉強度が高いそうです！

糸を結ぶことが苦手な私は、最初は
 くつ紐を使い、ネットの裏面を見ながら
 練習しました。釣りで何層も結び方が
 慣れていきました。



ハリスの種類

ナイロンとフロカーボン



ハリスはナイロンとフロカーボンがりましたが
 最初はよく分からず、とりあえずフロを使いました。
 次第に、モバリを沈ませたり浮かせたり、ホコリな
 状況で釣る様になり、使い分けしています。
 今、私は普通モバリの時はフロ、ドライモバリ
 を浮かせる時はナイロンで、0.8~1号を
 使っています。

フロカーボンは伸びが少ないけど、根ズレ等の擦れに強く沈みやすい一方、
 ナイロンは引張り強度が強く、しなやかで伸びがあり浮力が高いと
 いわれています。

テンカラではじめての魚

初夏、7月頃。まずは練習で、近所の里川でアブラハヤを
 釣ってみることに。私の家は愛知県の山支阜寄りの場所で
 近所に里川が多くあり、いつもトラコで通っていた細い沢に
 アブラハヤが居る様だったので、そこへ行ってみることに。

見よう見まねでキャストしていると、小さなアブラハヤが釣れました。
 ですがこの時は「アタリ」も何も分からず、竿を上げたら魚が
 ぐっついてた！という感じ。

ここには2,3回通い、何度かホッポツ釣れましたが、アブラハヤは小さく、
 正直アタリが分かる様にならなかったかというくらい微妙なところでした。
 ですが、キャストの練習にはなったと思います。



この時、釣り用のウェアはまだ持っていないから、
 とりあえずランニングウェアで釣りをしました。

ウェアや道具を揃えはじめた

もうダレ本格的に溪流釣りをしてみたいという思いが強いので、いよいよちゃんと準備を始めることにしました。

真夏のウェットウェーディングのスタイル

『偏光グラス』

溪流釣りは魚を見たり溪の中で足元を見るのが必須アイテム。これがあるのと無いのでは、川での動きやすさが全然違う!

『グローブ(手袋)』

溪流では岩に当たったり、ヤブをかき分けたりする事で、指先が荒れてくるので、指先を保護する専用のグローブの指先をカットして使っています。

『足靴』

渓ははいても滑りやすかったり、岩の間は足が狭まるなどのリスクもある為、靴は最優先で買いました。ラバーソールとフェルトソール(ヒール付)両方持っています。林道を長く歩くよう時はラバーソール、岩の付いた岩を歩く時はフェルトソールと行く場所やシーンに合わせて使い分けています。



真夏でも水が冷たいので、靴下は必須。私はウェーディング用の下に薄い足用靴下を重ねています。

『釣り用ベスト』

ベスト型だったりがザクザクだったりと、釣りをする場所やシーンで変わります。管理釣り場なら軽め、山奥で釣る時は持ち物がたくさんあるので、ザクザク等が良いです。



『長袖シャツ』

登山用のシャツを使っています。山の中の溪流は夏でも寒く、虫や日差しを防ぐ為長袖を着ています。釣りをする場所やシーンで、山の中はムソクソクやレインジャケット、ネオジムも持っておくと安心です。

『渓用タイツ』

動きやすさは、渓登り用タイツに水陸両用の交互ハコを履いています。

『ランディングネット』

釣った魚をキャッチする為の網。魚を傷付けにくい様なラバー製のものや、フックが刺さらない様に網の目のサイズも様々いくつか買いましたが、最終的には私はルーム内径260mmで、魚が大きいと見えるものを使っています。



はじめでのアマゴ

ウェアや道具もあき程度揃えたので、早速友人に三重県の鈴鹿の沢に何度か連れて行ってもらいました。事前にYouTubeやDVD(石直先生のレクチャー動画)をいくつか見てポイントやキャストについては学習していました。

しかし実際やってみると、ポイントがほとんどよく分かるものの、そのポイントを投げるのが難しい。ヒルと草が混ざると(鈴鹿はヒルがすごい)の釣りでも、みんながワイワイ釣りをすることが楽しい時間でした。



「ヒル」ニ30ヤマビル口撃し獲物の血を吸うヨ

鈴鹿で3,4回通ったヒルと格闘しながら、小さい小さなアマゴが釣れました。

20cmあるかないかのサイズで、小さ過ぎてアタリは全然分からず、竿を上げたらずいぶんという感じです。

ラッキーで釣れた感じがしますが、初めて釣った魚。パネリが美しい魚に感心しました。初めて釣れた日、周りの友人が一糸音に喜んでくれたのがとてもうれしく

「釣るのが楽しい」と感じました。もっと釣りが上手になりたい!とやる気が出ました。



この時はテトラポケットに付属していたネットを使用しました。



ウェットウェーディングって? 私は基本的に夏には釣りをしないと思っただけ、水にぬれてもいい装備で釣りをしたいスタイルで始めました。本州で真夏の林道歩きなどは、汗もかくのでウェットウェーディングが良いと判断しました。

あこがれの薬師沢へ

テシカワ1年目の季節は8月。

山梨県北都賀郡の郡上の沢など、少しづつ足を延ばす様になり、下手な釣りもそれなりに金釣りっぽくなってきたと、夏休みを利用して夫婦でよく登山で行っていた北アルプスに金釣り旅へ行ってみようという話になりました。これまでの墨川と違い、いきなりの山岳溪流。元々登山では行っていた場所である事、アキが釣りと登山の経験値がある事で、色々アドバイスをもらいながらチャレンジすることになりました。



薬師沢って？

北アルプスの、立山連山脈にある黒部源流部。折女登山口から1-2時間で6時間50分(休憩時間除く)で、薬師沢と黒部川本流の合流点には薬師沢小屋があり、小屋を拠点に岩魚釣りや沢登りをするお客さんが多いそう。



薬師沢へ釣りに行くにあたり、経験豊富な友人やよく行くアウトドアショップの店長さんにレポートや沢、道具選び等を教えてもらったり、インターネットで様々な記事等も参考にしました。今はネットやSNSでも情報が得られるので、色々な人の話を参考に、困ること無く、実行することが出来ました。



装備など

いつもの登山の荷物に金釣りの道具を追加しました。夏は、水が乾くことと重さを考えて、ネットフェーディングの装備で、登山をする時の服と兼用出来る様にしました。

元々、登山をしていたので、登山の装備が備えたり、今回は小屋泊なので荷物の重さは、テント泊をする時の重さを考えると、普段とそれ程大きく違いはありませんでした。

歩く時の格好...

偏光サングラスは登山でも使える



竿のケース

植物や虫を撮るカメラは必ず持って行く

歩行時は沢入りだけ、釣る時はサングラスを掛けた方がいいです

ショートパンツにプラス長ズボンも持っていくといい

たくさん歩くので、ランニングシューズと、ヒールシューズも持っていくといい

糸回した道具は、ホックにまとめて入れました。

フェーディングネットは小メのもの。マグネットジョイントで、ザックにくっつけられる様になっています。

金釣りをしている時に、登山のアタラクチックを活用しています。ゴミポットにのせて便利です。

登山で使うサングラスは、金釣りの時でも使えます。ホルダーにはアコースティックイヤホンやカメラ、カーター等をセットにして携帯していました。

竿のケースは、『フキケース』(フロッピーケース)を使いました。重くはない程度です。

今は山岳溪流に入る時は竿は、メインと予備竿の2本を持って来ましたが、この日は竿は1本しか持参していませんでした。(釣るたびに竿を交換する時に...)

+plus 他、登山の装備(この時は小屋泊)を持って行きました。

薬師沢小屋への道中、私の金釣り竿を見て話しかけてくれる沢屋ユキや同じ金釣り人との会話も楽しみの一つです。薬師沢小屋に到着するとこれまで釣りをしてきた川よりも大きな景色、水もきれい、川幅も広く岩も大きい...「北アルプスで金釣りが出来るんだ!」と、気持ちも上がってテンションも上がります。



到着して小屋の方にお話を聞き、夕食までの時間で金釣りができる場所などを教えてもらいました。小屋から少し下ったポイントで早速竿を振ってみると... (薬師沢小屋のヤマトウイロさんはテカウ師でもあり、様々な絵も描く小屋の人で、初めてお会いした時は本当にうれしかったのです...)

真夏で気温も高かったのでドライモバツを使いました。

何層かパンヤッと反応するものなかなかモバツを食ってくれません。やはり人気の沢で少し釣れにくくなっているのか...しかし、浮りく、モバツに食いついたイワナが!

この時期は、水面に深くドライモバツが良く見えて、釣具屋で買ったものから頂いたものまで使いました。

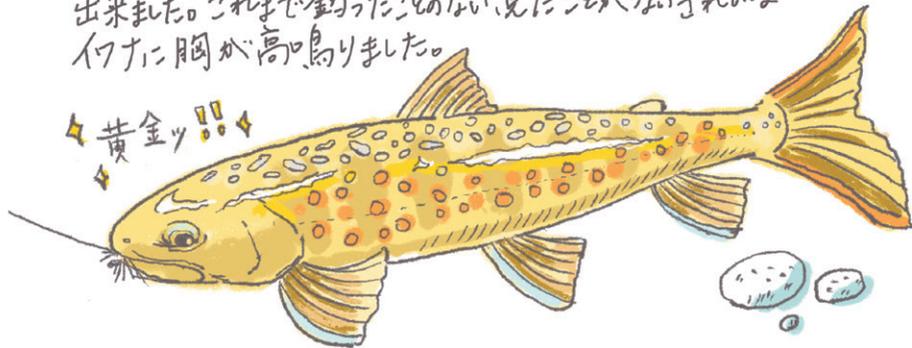


狙った場所は岩の向こう側、岩の側面直下という場所でした。魚がこちらが見えにくい場所だったのかもしれませんが



この時はドライモバツで魚が出たのでソコカリやすく、アフセるこまが出来ました。これまで金釣ったことない、見たことない、きれいなイワナに胸が高鳴りました。

黄金ッ!!



初めてのイワナ。黄金のきれいなイワナでした。サイズは25cm位のサイズ。自分のモバツに反応する仕草がなかなかに可愛らしい。前回アマゴを釣った時も、モバツに反応して金釣れポイントで「ちゅんちゅん金釣れた」感で...

初めての竿トラブル

綺麗なイワナが釣れて大満足し、ゆづり撮影していたら気が付くおまお良い時間に。

急いで竿をしまい、ラインを仕掛け巻玉にしまっている時、穂先が折れていることに気が付きました。ゴキゲンから一転、真ッ青に...。恐らくラインを巻く時に穂先を無理に曲げてしまったのだと思います。穂先はとて細く、折れやすいという事を身を持って学びました。完全に私の不注意でした。



この日は、2日目メインでしたが初日に竿を折ってしまった私は予備竿も持っていたので、アキと交代で釣りをすむになりました。この時から「予備竿」は金釣りに行く時は必ず持つようになりました。

また、テカウ竿を出し入れする時は必ず脇に竿を挟み、特に穂先の扱いには注意し、「ていねいに落ち着いて」扱うように心がけていますが... 初めの時は、枝に引っかかるとモバツを取ろうとして、根がかりしたモバツを取ろうとして、再度折ってしまったという失敗がありました...



薬師沢で折ってしまったテカウ竿は、テカウBBキットだったので「シマ」さんのカスタムセンターに相談し、穂先を交換する(穂先のみ購入する)という対応をして頂き、今でも予備竿として活躍しています。シマ)のカスタムセンターには親切に文才対応頂き、助かりました!

初期月に釣った困ったこと

糸巻先を折ったこと以外にも初心者ならではのミスやトラブルは多く付きます。挙げてみる。失敗だらけで取れずがっかりしますが、これを見てトラブル回避の参考にして頂ければ幸いです。

最初は失敗だらけ!



キャストイングのときのトラブル



キャスト(竿を振る毛バリを飛ばす)については、竿を振り上げた時、毛バリが自分の上にある木の枝や葉っぱにひっかかってしまうことは多く、金ツリをする時間よりもそれを取る時間と、仕掛けを作り直す時間とが多い。ここに投げたいと思えば、まず自分の立ち位置を考える。上に木が無いか、ある場合はどうキャストすればひっかからないかを考える事で、ひっかかりがかなり減りました。

キャストしたら、水中の木の根、こせじみに毛バリがひっかかり、これを無理やりひっぱってしまうと、竿が伸びてしまい、振り出し竿の継ぎ目が糸を断ち、中に仕舞えなくなり、竿が伸びたままになってしまふことがありました。軽くかして



リップを下にし、それにトントン何度か落としたりして取れたものも、ダメなものもあります。無理に竿をひっぱらない事。竿が濡れたら、釣りの後の竿を分解して草をかき、竿、普段からの手入れも大切です。

魚の扱いについて



無事に魚が釣れた後、糸はリリースすることにしていただく。最初の比目、魚の口からハリを外すときにかなり苦戦しました。魚が暴れていかなければいい。なので私は早々に、返しのない毛バリバーブレスフックに変えた。バーブレスフックの利からは手早くハリを外せる様になりました。バーブレスはバレやすいと感じますが、個人的には、アワセをしつこくすれば変わらないと感じます。あとは魚の扱いという点では、釣った魚をハリを取らず、フリ下げてしまう事もありました。また、撮影の時間もかかす事でつかれしてしまうこともありましたが(ブチナサイ)今は、魚をリリースするので魚の扱いには十分な気を付けています。

釣りに行く時、スマホも必ず持っています。魚の写真も撮ったり、地形図アプリで行ったルートやポイントも記録したり、行く次のコースの確認もしたりします。山の中で「検索内モード」にしても、オフラインで記録出来たり、地図が確認出来る様アプリを使っています。

スマホのこ



沢で撮影したり、地図を見たり、スマホを取り出す事が多いので、私はスマホをサコッシュなどに付けられる、落下防止のストラップを使っています。おかげで今の所、スマホを落した事はありません。



ウェア??



沢は真夏でも意外と寒い。水を矢張りまいた。竹竿に握提や流の近くはとも寒い。また、自然の中で釣りをしている、岩や藪のある場所を歩くとも多。肌は本気が出さないうが空です。岩に足をぶつけて大アザ、藪でトゲのある草を握って流血、足元に蛇... 釣りに行く場所選び、ウェアを考えるのも大切だと気が付きました。

ウェアを含め、釣りをするための道具も何度も買い直していました。特に、ラジエーターは最適なサイズが分からず、大ト様又買う...。自分の釣りのスタイルが決まってくるまでは、道具やウェア等、あれこれ言式していました。安くはないものか... ので、やはり自分が目指したい釣りのスタイルを採る経験者へのアドバイスをもらうことが近道かなと思っていました。とはいえ私もまだ自分のスタイルは摸索中です...。

道具選び



竿が無いです??



忘れ物

入渓までに山の中を2時間位歩かなければならない。沢にきた時、手に竿を握りしめて歩き、やっと現場に到着したら、竿の後ろの本金がいつの間にか落ちており、竿の中身も全てヒコガに落ちてしまっていました。気が付く、絶望したことがあります。その時は予備竿も持っておらず、せっかく来たのに釣りが出来なかつた... ことがありました。グリフの後ろの本金は糸巻機で緩むので、(私だけかと思つたら同じことをしていた友人が2人居ました!) 注意してゆるんでいないか時々チェックしましょう。

はるばる数時間かけて釣りに来たら、毛バツが無い。沢草化が無い。これは何度かやりました。毛バツに関しては車の中に予備の毛バツを置いておくことにしました。竿も忘れようで心細いので、予備竿を車の中に置きたいですが、夏は高温になるので置いていません。みなさんはどうしているのでしょうか...



ヒヤッとしたこと 落石・浮石



脱渓時に上った斜面の岩に手を置いたらゴツと崩れ、真下に人居ました。たが新まよ、間一髪...。川を渡渉中、矢張りしていた友人が「正背んだ」岩が動いて足の上に乗ってしまい、糸が手で動いてどうしても全く動かさずどうしようかと思いましたが、運良く足を抜く事が出来た。山奥の沢だったので、お母さん重けなくなったらと思うと怖い。こういう事があつたら、安全第一で、無理そうなら行かない。単独の釣行よりは、複数人で行く。単独の時、は行く事のある沢に行く。等、気を付けておきたいです。

小さな滝を越えられず、落ちた事はあります。背負っていた防水ザックが浮きになり先行していたアニキに引まわされてしまいました。もしも落ちたら、バニクになつていたかもしれませんが、最初の日は岩から岩への移動がつかず、もたもた。釣りにも沢登りの方で苦戦してヒヤッとする事も多く、恐怖心も出ています。自分が越えられずの高さを把握し、身の丈に合った沢を選ぶようになりました。



重カ牛



3月、釣りの解禁直後。まだ雪が降る中、本流で釣りをしていた時の事。20m先々に、大きな黒い影が動いているのが見えました。目測で体長は2m。熊だと思ひ、4隻ずエリシヤから距離を取りました。しかしその後の歩行速度が速く、焦りつ、ゆるく引退し川を渡り道路の方へ逃げました。季節黒い影は方向転換し山に走って行きました。落ちて、よく見ると大きな猪だと分かりました。熊ではありませんでした。どちらにしても突進したろひはヒヤッもありません。改めて、釣りをする事は熊の住処にお邪魔している、出会わない対策をしないといけないと思ひました。

初心者にも少し分りにくいルール？

川で釣りをする時に知っておくべきこと①

最初の頃、どの川に行けば良いのか、いきなり釣っているのか？
よく分りませんでしょ。私もたまたま近くに経験者が居る環境
だったので教えてもらいましたが、一人で言ってるのはなかなか
難しいと感じます。なので、最初の方は講習会に出たり、
初心者向けのイベントに参加したり、経験者について行くのが
良いと思います。本州の川の多くは
漁協(内水面漁業協同組合)が管理して
おり、遊漁券を購入する必要があります。
券はその川エリアのコンビニやお店、
アタリで購入できる所もあります。



必要な遊漁券があるのに
買わないと、密漁に
なってしまうので券が必要！
ちゃんと確認しよう！

どこの川に行く??

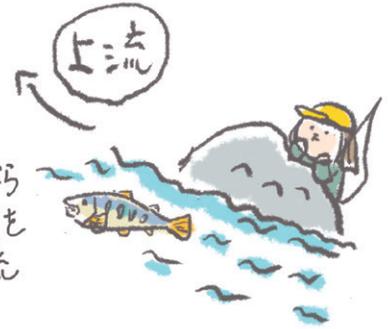
釣り場への情報は、一番は経験者に聞いた方が良いでしょう。
私は友人やアタリに同行したり、漁協のHPを見て行ける場所を知らされたが、
有名な入りやすい川は釣り人も多く魚が居ない、スレている、等々なかなか釣れず、
ボウズ(一匹も釣れない)日も多かったです。しかし、釣りに行くと、現地で聞いた
100元のおじちゃんから、ポイントも教えてくれたり、釣り場中間から増えて
良、釣り場への情報が自然に集まってくる様になりました。釣り人はお魚の
のポイントもネットに詳しく載せたりはしないので、実際に人と人の繋がりが
信頼関係で、ある程度知識を深められました。川の数は多く中には
「禁漁区」も混ざっているので、事前にちゃんと自己確認する事が大切です。

ちょっと分りにくい??!

川でのマナー①

「釣り止がり」

溪流釣りでは上流に向かって少しずつ進みながら
釣りをする釣り止がりが基本。魚の多くは頭を上
流に向けている為、背後から魚に近づいて下流
からなるべく気配を悟られないように狙う。



「釣り人同士のマナー」

釣り人は上流に向かって進んでいる事が多いので、
自分が入ろうとしている川に先行している釣り人
が居ないか、確認する必要があります。仮に
追い越して入ってしまうと、その人が釣ろうと
する場所を先に釣りしてしまうことになりま
す。なので、川や、渓流地点等で他の釣り人に
会ったら出来るだけ挨拶をして、どこに入るのか
聞くなど、コミュニケーションを取り気持ちよく
釣りが出来る様に心がけます。



「車停めのマナー」

釣りに入る為、車を馬車する時、
私有地に無断駐車したり、他の車の
通行の妨げになるような場所に
馬車するのはやめましょう。



石垣先生に釣りを教わる

テンカウの事について深く知りたい、と思った時、私は石垣先生の事を知りました。YouTubeでテンカウの動画を探していたら、たまたま石垣先生のテンカウ動画を見つけて、そこからDVDを購入し、How To 動画として勉強していました。そんなある日、石垣先生のホームページ「テンカウ大王のテンカウで大往生」で、静岡県の富士宮市にある芝川エリアにて、「芝川テンカウ交流会」というものが開催されると知り、芝川エリアは、CQR(キャストリリース)という釣りの魚を生かしたまま再び水の中に戻す、キャストアンドリリースがルールで決められているエリアです。

イベントでは、ニジマスやアマゴの放流が融合し、ニジマス釣り大会と、初心者向けの講習会の両方が行われます。

私は初心者向けの講習会への参加が目的でした。

テンカウ大王こと
石垣尚男先生
いしがきまさお

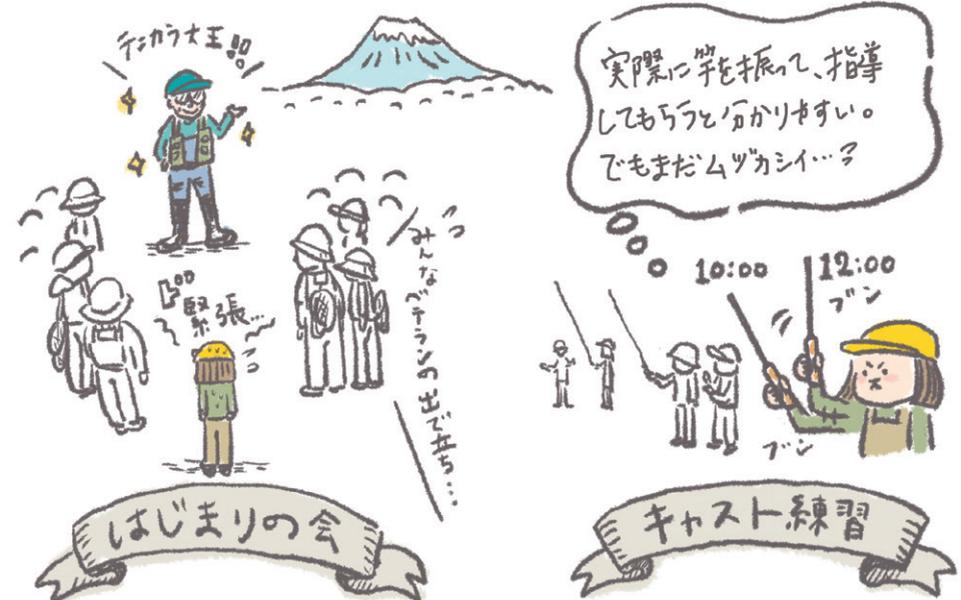
レベルライン釣法の第一人者。明快な理論と実践的な釣りの論、そして未知な人柄で全国に多くのファンを持つ。テンカウ先生、テンカウ大王と呼ばれている。

テンカウのイベントに出たいと思ったのは、プロの石垣先生からテンカウの基礎を学びたい、という思いと、イベントに来るであろうテンカウの先輩達は一体どんな人達なのだろう、交流の輪を広げたいなと思っていました。

いざ、イベントに行ってみるとイデオのみなさんがベテランに見えて緊張…。そんな私に石垣先生が気が付き、声をかけて下さり一気に安心。ベテランの先輩方も優しく、みなさんテンカウの輪を広げたいという気持ちの者でした。

いざ、初心者講習会へ!

ベテランのみなさんがニジマス釣り大会に出ている間、私は初心者講習会に参加しました。まずはキャストの練習。一斉に並び、1人1人丁寧に竿の振り方も教えてもらいます。実際に自分のキャストを直してもらった、動画や本だけを二次元的に見ていたものよりも立体的に竿の振りを促さる様子になり、情報量が段違いでした。この時点で来て良かった。と既に満足。

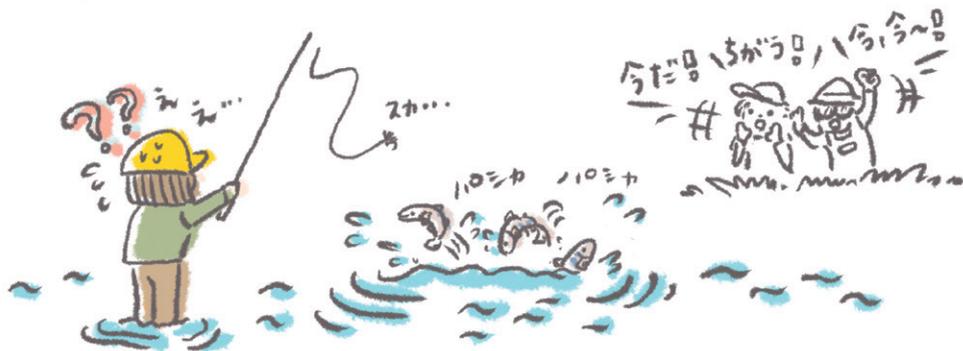


馬主車場でのキャスト練習の後には、
実際の川へ移動し、川を目の前に
石垣先生から狙うポイントやキャストの
仕方、アワセの仕方等々...
先生の釣りをみて学びます。



実釣。ライズを狙う。

講習の後には、習ったポイントを生かして自分で釣りを始める時間。
夕方にイェリ、とあるポイントで アマゴのライズ(水面付近の虫を食
ようと、水面に溶を現す)が告げられました。キャスト到来とばかりに
みんながどんどん金釣り上げる中、私も周囲の先輩からアドバイ
スを受けながらキャスト。しかし全く上手くいきません。
「今だ今! 違ふ今だ!」と声をかけられるもタイミングが合わず、糸巻局の
ライズで糸巻局一匹も金釣り上げるこゝろで止まらせて。こ
「アタリ」を認識できず、「アワセる」ことが、この時の私には難しかったです。
「ラインが止まる、なんとなくゴツッとした感触がある。」
そんなときにアワセる。この時点ではその仕の正理解でして。



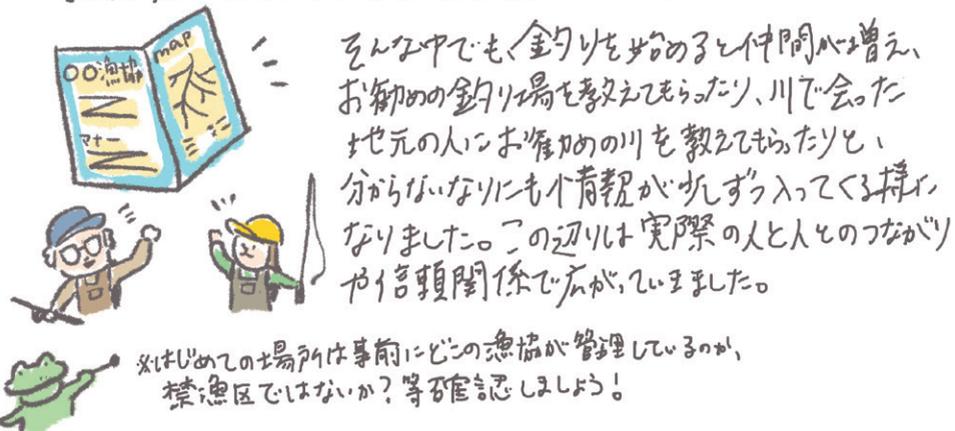
広がる金釣りのエリア

私が住んでいる場所は愛知県と山支阜県
県境の町なので金釣りに行く時は大体
山支阜県に行きます。山支阜県は広く、
奥深く、無数の河川があります。溪流釣
りは朝早く荷物も多い為、なかなか電車
で行くことは難しく、車を使う事が多いです。
ちなみ私には金釣りを始める事をきっかけに、
初めてマイカーを購入しました。これで色々な
場所へ自由に移動出来る様になりました。
この頃から金釣りに行くエリアもどんどん広がりました。



どこで金釣る?

移動手段はあるので、どこで金釣るするか? ですが、金釣りの
矢の合や友人から聞いた川に行ったり、ネットで調べてみたり、
本や雑誌を見て大体この辺りかな? というところに目星をつけて、
その川を管理している漁業協同組合のホームページを調べて
金釣り券を買い、早くとく入る。ということしか出来なかった為、
釣りに行く人が多く魚が少なかったり、入るポイントが分からなかったり、
結果的に一匹も金釣れなかった。つまり「ボウズ」の日が多かったです。



※はじめての場所は事前にどの漁協が管理しているのか、
禁漁区ではないか? 等を必ず確認しましょう!

ボウズの日々。釣れないのは何故か？

運良く、釣れる川に行けた時は良いけれど、どうしても釣れない時もと多く、一時期は行っても行っても釣れず、ルアー釣りのアキは釣れる(釣り歴は30年以上のベテラン)事もありました。あまりにも釣れないと、怒り出したりしますが、怒っても釣れません。

「何故今日は釣れなかったのか？」を考えることもしました。先輩の釣り人のおじさんが、釣れない理由も自分なりに考えることも、上達への一歩だと思っていたので、私も自分なりに頭をひねりました。



結局、正確な答えは自分からなかったのですが、今思えば、理由をあれこれ考える事は上達への一歩になったかと思っています。魚が居たよとあきらめず、色々試していると思わぬ場所で大物が釣れる事もありました。なので、糸はあきらめない事と、釣れない日があるからこそ、次が楽しみになる。と思って釣りを楽しんでいます。

それでも段々釣れる様になってきた

ボウズを繰り返す中でも、たまに釣れる日が出てきました。

その日アキはルアー釣り(フラスチックや金属などの疑似餌を使った釣り方)で序盤から尺クラスのイナサを外尺同様に釣っていましたが、糸の方は小さなイナサがたまに釣れる位で、ふるいません。よく立ちながらも、先行させてもらい上流の方まで釣り上げると、とうとう時間的にもそろそろ引き返さないといけな、時間になりました。最後の淵で出たけい、30cmでしつこく決めて竿を押ししました。

毛バリを落とした大きなイナサがゆらゆら出てきましたが、岩に隠れていました。まだハリに刺さっていないのでチャンスはあると思い、毛バリを変えて何層か流して研ぎ込んでおかなければならぬ。最後に自分巻いた少し変わった形の大きな黒い毛バリを流すと、今まで経験した事のない、くっつきという感触を感じました。竿を立て徐々に引き寄せ、キャッチ。実はこの日はエランジグ(大物に魚をいれる)は刺さって

もらいましたが、初めて初めて大きなイナサを釣り、感動。サイズを測るとなんと37cm!!! 初めての尺... 以上の釣果でした。



金釣れる様になってきたかも？

一度「ちゃんと狙って金釣れた」という経験をした後からは徐々に金釣れる日が増えてきた様に思います。魚の居るポイントがなんとなく分かる様になってきたと、そのポイントに狙った通りに毛バリを落とせる様になってきたこと。様々な場所での成功失敗を繰返すうちになんとなく分かる様になってきた。「ここはよく居る」と思った場所や、狙ったポイントにちゃんと毛バリを落として、ちゃんと魚が金釣れた時は、魚の大きさに関係らずぐく嬉しいです。もちろんそれが大きな魚だから嬉しいですが…！！

アタリ

アプローチ

私の課題は、アプローチ(魚の居るポイントの近づき方)です。忍び足でゆくりと姿勢を低く、岩に隠れながら、頭では分かっていても、では実際にどれ位の距離まで近づくべきか、上に木の枝がある場合はサイドキャスト(木遣い守屋)か、その場合はじかに近づき、本当に考える事が沢山あり、私はよく失敗して貴重なポイントも潰してしまふことがまだあります。苦手な事。まだまだ修業が続きそうです。

苦戦していたアタリについては、魚がババコと出てくれる場合は分かりやすいですが、そうでない場合は糸だけ(ラインがたるむ)や、一瞬ラインが止まる、また水中でのゴツンという様な小さな違和感の様か感覚でなんとなく分かる様になってきた気がします。

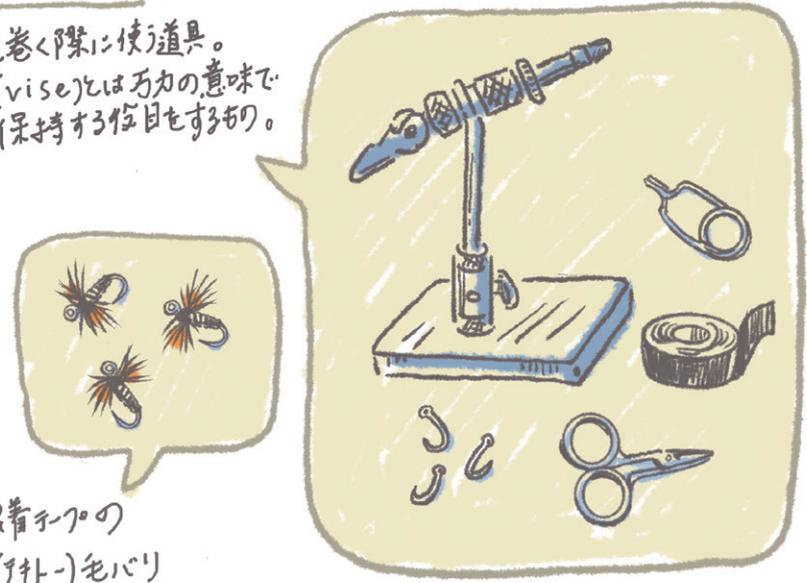


毛バリについて

毛バリについては、最初は釣具屋さんで購入した人から頂いたものを使っていたが、石垣先生の講座で教わった、自己融着テープを使った簡単な普通毛バリの巻き方を真似ておたり、フライフィッシングの教科書に載っている様々なきれいな毛バリを巻いておたり、自作で自由に巻いておたり、見よう見真似で様々な毛バリを巻いておたり。

タイイングバイス

毛バリを巻く際に使う道具。バイス(vise)とは巧力の意味で、ハリを保持する位置をさすもの。



自己融着テープの普通(フタ-)毛バリ

タイイングバイスを買って、毛バリを巻く道具を揃え、鳥の羽や根の色々巻いておたり。フライフィッシングをやるとはほんとに美しい毛バリを巻くので、それに憧れ、真似もしておたり。が、不器用で面倒臭がりな私には向かず、結局石垣先生の自己融着テープを使った普通毛バリを巻いて、メインで使っています。

ハックル



なんで
いいの...?



ハックルは最初は上川屋等釣具屋さんの
フライフィッシングの道具を扱っているコーナーに
売っていたのでそれを購入していました。
私はフックネックやフックサドル等、ニフトの羽根を
よく使っていますが羽根については正直か
ながら、これまでに雑多に買い集めてきた
羽根を色々長土、硬さで選んで使っています。

最近、黒っぽい羽根を選ぶ事が多いですが、黒が良いと思った
のは、釣リキチ三平に出てくる毛バリ名人の「毛バリ山人の山人黒毛バリ」
を見たから、という程度の理由です。

ハリ

ハリについては、大体12番のバーブレスフック(返しが無いタイプの
毛バリ)を使っています。状況により、より小さいサイズに変えたり
もしますが、大体12番がメインです。最初の頃は数字を見ても
全然サイズ感が分からず、実物を見て選べなかったのので店頭で
見購入し、使うサイズが決まったらネットで再購入もしました。

大きなハリを使えば、大きなイワナが釣れるのかと思いき、やはり
大きなハリでビッグサイズの毛バリを巻いた事もありますか、あつ
出番はありません。初めて尺越えのイワナを釣った日も、
12番の毛バリでした。



魚をリリースする事が多いのでバーブレスメインです。

今、出来ていること、出来ないこと

これまで石垣先生と合計2回、金釣りに行きご指導頂きました。
そうしたら私の出来ていること、出来ないことが見えて
きました。洗い出してみると出来ていないところの方がまだ
まだ多いです。...というか、出来ない方がみなさんの
役に立つ気がするので、紹介いたします。

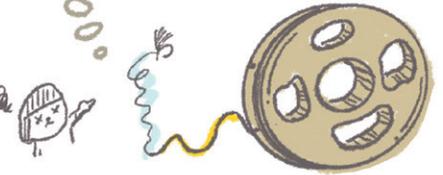
金釣り Day II

1回目の金釣りでは基本的な
指導を受けました。

仕掛けの準備

仕掛けはラインを巻くので、
ハリスと毛バリは付いていない状態で
金釣りに来たワタシ。金釣りに行く時は
すでに金釣り始められる本業に、ハリスも
毛バリも準備してくるべし!とご指導
頂きました。初、並肩から頼りない私です。

ハリスは消耗品!!
前回使ったハリスは使えない!!



ラインの長さ

金釣りに入る川幅によつてラインの長さを
変えますが、私のいつも使っている3.3mの
竿では、ラインは竿と同じ長さのハリスは
矢張りその長さです。



矢引きは背を伸ばし、
胸あるいは肩の長さ
をおおむね1m。

この竿はライン、ハリスの
糸目合わせが、糸目合わせ
合わせ、釣り針の
ベストポイント



石垣先生

自分の射程距離

テニスはキャスト「間合い、アプローチ」
 私はいついポイントに近づき過ぎて
 しまい、ポイントを通り過ぎてしまったり、
 魚が逃げちゃうことがありました。
 キャスティングをちゃんとすれば、狙った
 場所へ届く事が分かりました。
 先生に指導して頂いたなら、案外届く、
 という風に思いました。

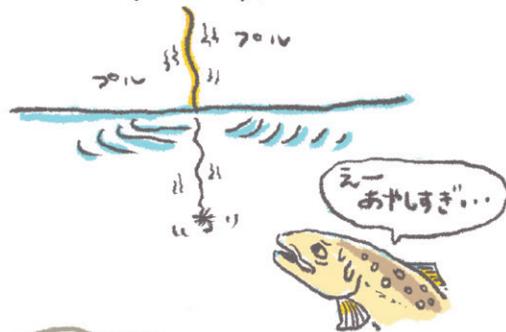


キャストのカギ

射程距離の話にも共通しますが、
 つい手をのばしてポイントへ無理な
 姿勢でキャストしてしまうと、手がふるえ、
 ラインもふるえてしまいます。先生からの
 アドバイスで竿をギュッと握ってしまう手を
 「親指と人差し指を離れ、軽く添える」
 とアドバイスを頂き、やってみると余計な
 力が入らず、手とラインのふるえは止まりました。



かむ、以外にも、射程距離が
 分からないから手をのばす月杓も
 軽々のびてくる癖もありました。
 「月杓のばさない」と先生にアドバイスを
 頂く度、ハッと我に返りキャストを
 見直します。



釣りをしてると、ついつい夢中になって
 忘れてしまいがちですが、時々冷静になって
 自分のキャストを見直す大切さを感じます...

合わせ

私は焦る気持ちからついつい早合わせになってしまいがちでした。
 気持ちに余裕があれば、ゆくり落ち着いて
 出来るはずですが... 先生曰く、アタリを
 予測出来るのは、余裕が出るはずだと。

この辺りでアタリという
 予測はすぐには出来ない。
 経験値が必要。しかし、
 水深、流れの速度など
 は似ているので、この辺りで
 出るな?と予測出来るよ。



取り込み

取り込みはまだ「ジジジ」です。
 魚がかかる焦って、いきなりタモを手で
 持ってしまうのを先生に指摘されました。
 「タモは最後!」それに私はタモを付け
 る位置がバラバラなので、毎回手探
 してしまいうことも「ジジジ」になる理由。
 タモを付ける位置はいつも一緒でなくて
 はいけません。あと私は自分から魚に
 寄り行ってしまいう癖がありました。
 「自分から魚に寄らない。自分のそばに
 魚を誘導して行くこと。」これを学びました。



自分から寄り行くと、魚に目が
 行くと足元が見えないから
 車椅子の中ケンがあるし、こちらの
 重たい他の魚を警戒させてしまおうよ!



釣行 Day 2

2回目は真夏の釣行。
大湯水、ハイフレッシュの中でどう
釣るか? がテーマになりました。

狙う場所

この日はお昼の休み明けの平日。前日には散々叩かれ、更にはかなり
湯水の渓流でした。こんな時、狙う場所は...?
未だはついつい、とりあえずいつも狙う場所を言試してしまいましたが
当然、うんととすんとも。先生のアドバイスで、皆が狙わない場所、
入渓する岸の反対側の、対岸のポイントを狙うことにしました。

手前に流れがあるからこちらの
存在には気付かれにくいし、面倒だからと
あまり人が狙わない場所。

対岸側を集中的に攻めていくと...
実際に魚が出ました!
ダメでやっている
いけないよ、もっと戦略的に
釣らないと、魚は釣れ
ないんだと、実感しました。



こちら側の方が
歩きやすいし、竿も
振りやすいよなあ...

入渓した側



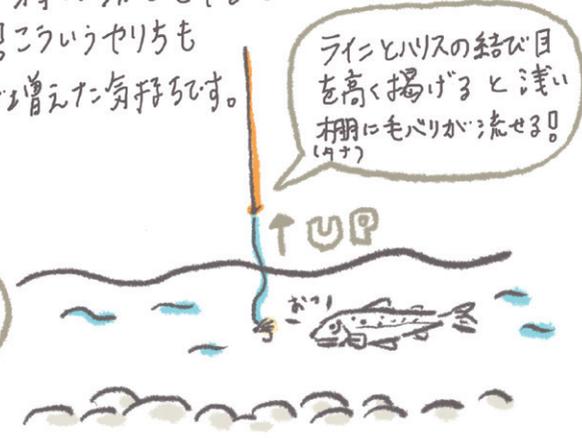
川の状況を見て釣り人はどちら側を歩くかを考える。
歩く側の魚は警戒している。なので、反対側を主に狙う。
気付かないポイントを自分ですり出し狙います。

ラインを浮かせる

これは目から鱗でした。普段は、ラインの結び目を
水面につけて流していましたが、湯水で水深が
浅い場合は毛バリが沈み過ぎてしまい、魚の居る
棚からズレてしまいます。あえてラインを高く掲げて
毛バリが沈み過ぎないように流してやると
魚が釣れ始めました! こういうやり方も
あるのだな、と引出しが増えた気がしています。

ラインとバリの結び目
を高く掲げると浅い
棚にもバリが流せる!
(9+)

「棚」って...?
棚(ナ)とは、魚が
泳いでいる水深の
ところ。狙う魚がどの深さ(棚)
にいるかを考えて、仕掛けを
調整するのも大事...



一投目が大事...!

講習中、先生がお手本を見せてくれると、大体釣れます。
先生は一投目に良いポイントにズバッと毛バリを打ち込みます。
やはり、良い流れの筋に最初から毛バリを流せるって圧倒的に
釣れるチャンスが増すのだと実感しました。良いポイントに流す為



何度もやり直してしまうの
ですが、その度に水面を
叩く事になるので魚は警戒し
出て来なくなってしまいます。一投目
にどれだけ高い精度のキャストが
出来るか、これに尽きるのだと感じています。

糸の結び目

今更でした。モビリとハリスを結ぶ際の結び目について。
(糸はユニットで結んでいます)糸は結び目の余りを矢短く
カットしています。短か過ぎて、しば技けて解けた事がありました。
なので、解けなように、程良く残す方がよいとアドバイス頂きました。

OK



ある程度残す

NG



結びやすくなる

ハリスの太さ



ハリスはなんとなく、0.8号か、0.6号、
1号、を使い分けていたが使いこなして
はいませんでした。先生曰く、
ハリスは1号でも十分。イナハハリスを選ばないの
確かならうかもしれませんが、釣れない時など
細いハリスに換えた色々買ってきて試してい
ましたが、1号だと急いで仕掛けを
作っても絡まないと、うっかり大物もかけてそ
とられることもないな、と思いました。

まとめ

2回にわたり、石垣先生の講習を受け自分の釣りを見直す機会を
頂きましたが、改めて自分は何年か続けている釣りには、
出来ない事が多く、全くお暇がほしい限りです。
一方、先生からの点数としては、100点中65点と頂きました。
絶妙!!笑

やっぱりテンカラが女子き!

普段は本州での釣りがメインですが、機会に恵まれ、
北海道へも行き、降海型のイナハ(アメマス)を釣ったり
湖での釣りにチャレンジしました。冬は管理釣り場で
大きなニジマス釣りもする様になりました。

様々な場所で色々な魚を釣りたいと思う様になり、
北海道でも大きな魚を狙う為、フライフィッシングも覚え、
湖での釣りにチャレンジする為、ルアー釣りにチャレンジ
しています。テンカラからシフトして一時的にフライフィッシングを
やりました。時期もありました。
でも、最終的にはやっぱりテンカラが面白いと感じ、私には
合っている様に感じます。おばあちゃんになるまで、細く長く
テンカラを続けていきたいなと思っています。

テンカラは道具もテクニックも基本的には
とてもシンプルです。腕と竿一本で釣る
感じがとても男らしいのです。
魚がかかった時の感覚もダイレクトに
感じられて非常に楽しいです。
それに、テンカラは日本古来からあり釣り
だということも魅力的です。昔の釣りに
思いを馳せながら釣るのはとても
ロマンがあります...!



最後に

私は、テンカラ等の釣りを通じ、自然の中で遊ぶことが
楽しみを知り、自然そのものに対する理解や、
生き物への関心や魅力を覚える人が増えたら
いいなと思っています。

みんなでルールを守って楽しく釣りをし、川や自然
に対する理解がもっと深まれば、この先も魚が
たくさんいる美しい自然環境を守れるのでしょ
うかと、期待しています。

次の世代に溪流釣りの楽しさを伝えられ、
私自身もおばあちゃんになるまでテンカラを愛せ
られたい幸せなことです。

誰かに読んでくれて、釣り、テンカラを女子主になって
もらえるのが、この冊子が読めれば幸いです。

2026年2月 発行

著者／池田亜季

監修／石垣尚男（テンカラ大王／シマノ・アドバイザー）

本書の一部または全部について、
著者の承諾を得ずに無断で複製・複製することは禁じられております。

女性とテンカラ

石垣尚男

（テンカラ大王／シマノ・アドバイザー）

山ガールほどではないが、釣りガールも
少しずつ増えてきた。山に比べて釣りは女
性には敷居が高い。

まわりは魚臭い男ばかりである。釣り具
店へは一人で行きにくい。しかも女性向け
のファッションは皆無である。女性が（と
くに若い）釣り場に行こうものなら、頼み
もしないのに、撒き餌に集まるようにオジ
サンたちが寄ってくる。

魚は生臭いし、さばけばまな板は血だら
けになる。餌は気持ち悪いうえに、男の目
があるのでトイレに困る。山に行けばソ
ゾオと鳥肌のたつ虫だらけ。

キャー！ ヘビ。 ヒッ！ ヒル。
そんな釣りのどこが面白いの、というのが
あらかたの女性の思いである。それでも
やってみたい女性は多いはずだ。しかし、
釣りを始めるきっかけがまずない。これは
男も同じである。きっかけさえあれば釣り
にはまる女性も少なくないだろう。釣りイ
ベントや講習会は貴重な機会である。

多くの家庭で女性が経済を握っている。
経済的にみたら女性は釣りは無駄な遊びと
思うに違いない。

「なんであんなに時間とお金をかけて釣り
になんか行くの。そのお金があればスー
パーで食べきれないくらい買えるのに。そ
んなにお金をかけても、なかには釣った魚
を逃がしてくる人がいるなんて信じられな
い。もったいない」

「いやいや深山幽谷に分け入り、狙った魚
をキャッチしたときの喜びは格別で、男の
ロマンなんだ。遊んでくれてありがとう、
と自然に出てしまうんだな。食べようなん
で思わなくなるよ」

「あっ、そうなの。それが男のロマン？
好きにしたら。女のロマンはマロン。マロ
ンケーキよ。ああ、モンブラン食べたい」

いろいろな釣りがある。お膳立てされて
いる釣りと、自己判断の釣りに分けること
ができる。お膳立ての代表は船長の指示に
従えば釣れる船釣りである。それに比べて
テンカラは天候、水況、水温など千変万化
する状況を判断し、ポイントを考え、キャ
スティングし・・・それらを手助けなく、
すべて自分でしなければならぬ。しかも
源流から溪流、本流があり、どこも危険が
一杯である。昨日釣れたのに今日はなぜ？
魚の気持ちはわからない。地理的条件が溪
流ごとに違い、人知が及ばず、コントロ
ールできない複雑な条件のなかで、偽もの
餌（毛バリ）で釣ろうとするのがテンカラ
である。奥が深いと言われる由縁である。

そんなテンカラを楽しむ女性が少しずつ
増えてきた。数少ないなかの一人がAkiさ
んである。Akiさんは2022年からテンカラ
を始めた。小さな頃から虫が大好き。も
ともと虫や生き物で遊ぶインドア派だっ
たが、結婚相手の趣味が釣りだった。おのず

と釣りに関心を持つようになり、やがて溪流釣りにテンカラという毛バリ釣りがあることを知る。パートナーはルアーがメインだが、なぜかルアーではなくテンカラになった。リールやルアーを買うお金がなかったからと言うが、ロッド、リール、ルアーのタックルシステムが複雑で難しく思えたようだ。

ある日の登山のとき、ふと溪流に目がいった。いる！淵尻に魚が。あれはアマゴ？イワナ？そのとき、テンカラならザックから仕掛けを出してすぐ釣りができると思った。そこからYouTubeやDVDを見て、拙書『超明快レベルラインテンカラ』（つり人社）でテンカラの知識を得た。私との初めての出会いは2023年春の芝川テンカラ交流会に夫婦で参加したときである。このときAkiさんから、うまくなりたので教えてほしいと請われた。意欲あるAkiさんなら教え甲斐がありそうだ。その後、2回、テンカラの基本をレクチャーした。パーソナルな釣りでは教えられたことを確認し、復習する意識をお願いした。その甲斐があり、今ではポイントの見方、キャストイング、合わせ、取り込みの一連がそれなりにできるようになった。もうそれほどアドバイスはいらぬ。これからは魚が先生である。

女性は複雑なシステムを苦手とする傾向がある。これは男と女の生来の違いにある

ように思う。男の子は小さいころから金属、機械、シムテムに強い反応を示す。リールのついた竿とのべ竿が並んでいたから、男の子はリールつきの竿を手にとる。女の子はのべ竿である。社会的な理由によるのではなく、うまれつきの違いがそうさせている。男の子の最初の釣りがルアー、大人でもルアーが多いのはそのような理由にあると思う。

テンカラは女性に向いている。ミミズは臭い。ミミズを触った手でおにぎりは無理。もぞもぞした川虫はエイリアンみたいで怖い。ブドウ虫は気持ち悪い。フライはシステムが複雑。でもテンカラは餌を使わないし、仕掛けはシンプルである。キャストイングもそれほど難しいものではない。毛バリはそれらしく巻けば十分で、オリジナルな毛バリを巻く楽しみもある。なによりお金がかからないのはうれしい。

最初は誰もが初心者である。この冊子は初心者がステップアップし、ある程度釣れるようになる過程と出来事をイラストと手書きで紹介したものである。私もいくつかテンカラの教科書的な本を書いたが、これからテンカラを始める人、ステップアップしたい人に向けて、こうすればいい、こうすればできると「上から目線」で書いている。こうすればいいと言っても、どこが悪いのか、悪いところもわからないのが初心者であるが、教科書に

は上達に至るまでの、うまくできない過程が省かれていることが多い。しかし、この冊子は「下から目線」で書かれている。まったくの初心者が、何もわからなかった状態から経験を積んである程度できるようになる過程である。うまくなるにはAkiさんと同じような過程を経るので、これから始めようとする人、すでに始めた人には最適である。溪流のルールやマナー、さらに誰もが一度は経験するトラブルをわかりやすく知ることができる。キャストイングの前に、初心者がおろそかにするアプローチや射程距離がくわえて重要であること、アタリの取り方などが同時体験的に理解できるだろう。

虫や草花など自然に詳しいAkiさんは、自然との関わりのなかにテンカラをおいている。魚も自然の一部である。テンカラほど自然を観察し、自然に教えられる釣りはないかもしれない。雪ヤナギが咲いた。桜も咲いた。そろそろあの溪流のアマゴは出る。藤の花が咲けばテンカラのベストシーズンだ。春の水の冷たさを、5月の緑の風を感じ、空気の湿り気から大物の活性を予感する。青空と夏雲の下のイワナ。命の躍動も早い秋の訪れで・・・季節のうつろいとともにテンカラはある。私の場合は虫である。虫はいろいろ教えてくれる。

あ！ハッチだ。ミツバチハッチ？虫が飛び出した。羽化だ！うかうかしてられない。

セミも教えてくれる。
春ゼミがジイ（爺）、ジイ（爺）。
呼んでるな
今日は釣れそう？ カナカナとヒグラシ
魚はいる？ ミーン、ミーン
バラした！ ツクツクオーシー
尺ものキャッチ！
クマゼミがシャン、シャン、シャンと拍手
トンボも。秋はどうかね？ アキアカンネ

この冊子を特に女性に勧めたい。トイレの問題、虫だらけ、危険が一杯の溪流は女性にはハンディであるが、そんな溪流には夢（ロマン）が一杯つまっている。この釣りを始めると誰もが夢をみる。1匹釣りしたい、たくさん釣りたい、もっと大きな魚を、もっと綺麗な魚を釣りたい。そんな夢をテンカラで追い求めることができる。マロンも日々の暮らしの楽しみであるが、ロマンもまた人生を豊かにする。一人でも多くの人が、また女性がテンカラの面白さに触れ、楽しんでくれればと思っている。



